H20 年度　異文化実習(韓国)

기간（期間）：　８월４일～８월 ２４일

（８月４日～８月２４日）

장소（場所）：　울산대학교

（蔚山大学校）

참가 자（参加者）：　１１ 명

（１１名）

まえがき

蔚山大学への短期研修に、韓国語を学んでいる 2、3 年生、合わせて 11 名が参加しました。蔚山大学では公立大学だけではなく、他の大学も参加していました。そこで交流をもつと同時に、韓国語に対する意識も向上しました。韓国の伝統授業では 3 週間の間に、多くの伝統的体験をしました。また韓国人パートナーとの交流を通して、韓国について様々な事を知ることが出来ました。この研修では、11 名それぞれ、かけがえのない、そして充実した日々を送りました。そんな日々をこの 1 冊にまとめてみましたので、どうぞご覧下さい。

☆目次☆

●まえがき　P. 1

●目次　P. 2

●日程表　P. 3

●感想レポート　P. 4～P. 17

●研究テーマレポート　P. 18～P. 34

●弁論大会原稿　P. 35～P. 38

●文化体験　P. 39

●アンケート　P. 40～P44

●あとがき　P. 45

研修日程:8/4(月)～8/24(日)

日 付	午 前	午 後
8 月 4 日（月）	宮崎出発	福岡→釜山→蔚山
8 月 5 日（火）	0・T／クラス分けテスト	韓国語 1 （キャンパスツアー）、歓迎会
8 月 6 日（水）	韓国語 2	陶磁器作り
8 月 7 日（木）	韓国語 3	伝統遊び
8 月 8 日（金）	慶州見学	
8 月 9 日（土）	ホームステイ	
8 月 10 日（日）		
8 月 11 日（月）	韓国語 4	産業施設見学（現代自動車）
8 月 12 日（火）	韓国語 5	韓国語 6（韓国の歌）
8 月 13 日（水）	韓国語 7（川遊び）	料理実習
8 月 14 日（木）	韓国語 8	韓国語 9（韓服試着、伝統菓子試食）
8 月 15 日（金）	韓国語 10	韓国語 11（韓国映画）
8 月 16 日（土）	自由行動	
8 月 17 日（日）		
8 月 18 日（月）	韓国語 12	テクォンド
8 月 19 日（火）	韓国語 13	仏国寺
8 月 20 日（水）	韓国語 14	自由行動
8 月 21 日（木）	韓国語 15	韓国語 16（弁論大会）、宮崎送別会
8 月 22 日（金）	蔚山からソウルへ移動、独立記念館	
8 月 23 日（土）	板門店	自由行動
8 月 24 日（日）	仁川出発	宮崎到着

感想
レポート

ウルサン滞在記

20710027　宇戸麻佑子

今回の異文化実習は私にとって２回目の異文化実習だった。去年も韓国・蔚山に行って、今年も行くことにした。蔚山滞在期間中、「なんで２回も来ようと思ったの」といろいろな人に聞かれた。私も今年は行くかどうか迷っていたが、今年は友達が行くということと、何よりも去年の研修が楽しかったことから、今年も参加することにした。一年ぶりに行った蔚山は、当たり前だが去年とさほど変わったところはなかった。違うのは、一緒に行く公立大、他大学から集まる研修生のメンバーや私たちを迎えてくださるスタッフの方々、パートナーたちだ。そしてなにより自分自身が去年とは違っていたと思う。去年は韓国に行くのが初めてだったのでわからないことだらけだったが、今年は２回目だったので少しはどういった感じか、イメージを持つことができた。そして去年は韓国語の勉強はわずか３ヶ月程度で、ようやくハングルが読めるようになったレベルで韓国に行ったが、今年は１年とちょっと勉強しての韓国行きだったので去年よりはできるはず、と多少の期待を持って蔚山に向かった。

しかし、実際に韓国に行ってみると期待とは裏腹に自分の韓国語能力の低さに正直がっかりした。パートナーとも会話のほとんどは日本語でしてしまってまだまだ勉強が足りないな、ということを身をもって実感した。

一方で、楽しいことや初めて体験することもたくさんあった。まず、今年は朝ごはんを蔚山大学の食堂で食べることができて、“韓国の学食”を体験することができた。やはり韓国の食事には、どこかに辛い要素があるな、と思った。

タクシーに乗っている車内で運転手さんに話しかけられて、笑顔でごまかしながらもわかる範囲で会話したり寮の売店のおばさんと何気なく話したり、“韓国人”と触れ合う機会が多かったことも楽しかった。ご飯を食べようと入った飲食店で、韓国語が通じなくて戸惑ったことも多々あったが、それもまたいい経験になった。

また今年は、弁論大会にも出場して下手くそだが自分なりに頑張って韓国語で弁論するという、貴重な経験もできた。

そして何より去年と同様にたくさんの人と出会うことができたことが、今回も異文化実習に参加してよかったな、と思えた一番の理由だ。今年の夏だけにしかできなかったに違いない出会いがたくさんあった。また韓国語で自分の気持ちを“伝える”ことができないもどかしさをひしひしと感じ、韓国語の勉強を頑張ろう、と決意を新たにすることもできた。いつか今回お世話になった人たちや韓国にいる友達に韓国語で話せるように、これからも韓国語の学習を続けていきたいと思う。

今回のこの研修に関わってくださったすべての人たちに感謝したいと思う。そしてまた会いましょう！

変わるもの、変わらないもの

20610081　　小橋　彩

私は今回の韓国異文化実習が二度目の参加となった研修生の一人だったが、研修に参加して本当に良かったと思う。三週間はとても充実していた。日本にいても韓国語の勉強はできるが、勉強方法が机上やテレビなどの注入形式に限られるため、アウトプットの機会にどうしても欠けてしまう。コミュニケーションの幅を広げる手段を習得していても、それを使う場がないままというのは何とももったいない話である。私は研修に参加したことにより、「喋りたい！喋りたい！」とずっと溜まっていた欲求をやっと発散できる環境に身をおけて、ワクワクがとまらなかった。夜寝る頃になると、その日一日あった出来事のいろんな場面がフラッシュバックしてきて、「あそこでこの韓国語を使っていればもっとうまく伝わったかなぁ」、「こういうとき韓国語で何て言うんだろう」、「日本語と韓国語って、こんな点が違うなぁ」など、自分の中でいろんな意見がとめどなく浮かんできていた。また一度目の研修当時はあまりに語彙が少なかったため目に入る単語を覚えることで精一杯だったのに対し、今回の研修では語学を軸にその他の分野にも自分の関心が伸びていくのがわかった。「韓国も原油高騰の影響で、商品の価格が値上がりしたのだろうか」、「日本のテレビは地デジ放送に切り替わるが、韓国も同じなのだろうか」、「街でよく流れてるあの曲は、何てタイトルなんだろう」…。とにかく今の韓国を知りたいという気持ちから様々な角度にアンテナが向き、考え出すと止まらなくなって眠れなくなることもしばしばだった。

「国が変われば、人も変わる」というのが今回の研修で強く感じたことの一つである。ある日夕食をとった店の別の部屋から、突然火がついたようなものすごい勢いの口論が聞こえてきた。しばらく続いたその口論の様子を察する限り、そこで食事をしていた男性客と働いていた女性店員のやりとりだったと思うが二人ともかなり早口で、大声だったにも関わらず何を言っているのかまったく聞き取れなかった。日本のサービス業に置き換えると、こんなことは考えられないだろう。私は接客のアルバイトをしているが、お客様からクレームを受けたとき店員側はただただ謝ることしかできない。たとえそれが不当な内容だったとしても頭を下げ続け、相手が落ち着くのを待つばかりである。飲食店で偶然目にした光景であったが、お客と店員の両者ともが感情を素直に出し、後先考えずに今自分の思っていることを相手にぶつけるという姿勢がメディアで報道されるデモなどの様子と重なって見え、そこから韓国人の国民性を感じた。日本にいると、人の目やその後どうなるかを気にして、思っていてもなかなか表に出せないことがある。それは謙譲の美徳として日本文化の大切にしたい部分だが、私は韓国人の自己主張をはっきりできるという面も、本気で生きているという感じがして好きだ。

そして、「国が変わっても人は同じ」ということもまた、今回の研修で強く感じた。先に述べたことと一見矛盾しているようだが、この二点は密接に結びついていると私は考える。向こうにいた間に、私はたくさんの韓国人のやさしさに触れた。三週間一緒だったパート

ナーや蔚山大の国際交流員の皆さん、学生スタッフさんはもちろん、その他にも方言混じりの韓国語で世間話をしてくれた寄宿舎の売店のおばさんや、バスの中で席を譲ると、代わりに私のカバンをひざの上でもってくれたおばあちゃん…。私が外国人だからという変な配慮からではなくただ“人”としてみてくれて、自然にでてきた優しさだったのが本当に嬉しくてじんとなった。国が変わって人が変わっても異なる点ばかりではなく、思いやりがあって温かいという本質の部分では、人はみな同じなのだと感じた。

ここに述べたこと以外にも、ことばや食べ物、道行く人の様子など、実際に韓国に身をおいてみて初めてわかることはたくさんある。毎日が新しいことの発見、吸収、勉強の連続だった研修期間は私にとって大きな糧となったし、この研修を通して韓国がますます好きになった。今後も自分なりのスタンスで、韓国語や韓国文化を熱意をもって学び続けていきたい。

初めての韓国

20710138　　中村　紫のぶ

私は韓国に行くのは今回が初めてだった。宮崎空港では私の韓国語はきちんと通じるか、という不安と、初めての韓国に対する期待や宮崎に短期研修に来た学生たちに会える喜びでドキドキしていた。しかし、空港に着いても、バスに乗って宿舎に向かっていても全然韓国にいるという感じがしなかった。でも街に出てみると、お店の看板や自動車などちょっとしたことが違うことに気づいた。韓国は同じアジアだし、隣の国だし、何かと似ているところが多く、雰囲気は日本とそれほど変わらないが、いざ一歩入ってみるとそこはやはり外国だった。海に行けばビーチは砂ではなく石だったし、みんな洋服で海に入っていた。バス停には電光掲示板があって何番のバスがあと何分で到着、何番のバスが今どこを出発などの情報が次々入ってくるし、いざバスが到着したかと思えばすぐ出発してしまう。バスの速度はとても速く、吊革に掴まっていても倒れてしまうほどで、棒や座席の取手などに必死に掴まっていなければならないほどであった。お店に入れば店員さんが無言でついて回る…なんともいえない威圧感。ファッションビルに入ると店員さんの姿はほとんどなく、メモに「ご用の方はここまで」と携帯の番号があいてある。食堂に入れば壁一面に大きな鏡、エレベーターの中にも鏡、そしてトイレの個室のドアにも鏡…。挙げれば本当にきりがないほど出てくる。これらの違いはおもしろくもあり、不思議でもあり、また、ショックでもあった。しかしそれらは私にたくさんの興味を与えてくれた。

私が韓国で一番心配していたのは、やはり自分の韓国語が通じるかどうかということだった。韓国語は発音が難しく、息の出し方や舌の使い方一つで全く違う言葉になってしまう言語である。私たち日本人にはどこが違うのか全く分からなくても、韓国人にはまったく違う音に聞こえるらしい。歓迎会の時に同じ席の友達がパートナーと「腕」と「足」の発音をずっと練習していたが、何度やっても OK がもらえず、友達はその違いがわからないと言っていた。また私自身も、ネイルショップに行ったとき、店員さんと話していて「バス」と言いたかったのだが、何度言っても、何度言い直しても通じず、先輩にも手伝ってもらったが通じないことがあった。やっと店員さんがわかってくれて「ああ、バスね」と言ったその発音に私たちは何が違うのか分からなかった。本当に韓国語は発音が難しい。どの店に入っても店員さんは私が日本人だとわかると戸惑い、英語などを使って必死に説明してくれようとしてくれたが、私が思い切って韓国語で話してみると意外と会話ができ、みんな上手だねと言って褒めてくれた。発音が通じなかったのもその時だけだったし、そのネイルショップでもかなりの間韓国語で話した。私は今回の研修で少し自分の韓国語に自信を持つことができた。また、自分の問題点を知ることができた。日本にいるとどうしても韓国語を使う機会がないし、ネイティブの人と話す機会もないので、自分の発音が通じるのか、正しいのかがわからないし、今回の研修は私に自信とやる気を与えてくれた。

また、今回の研修で私は懐かしい友達と再会することができた。今年宮崎にきた研修団

たちだけでなく、今年の夏まで宮崎に交換留学生として来ていた 2 人、去年私がパートナーをした学生、去年の交換留学生…。また、おととし蔚山大学に交換留学していた先輩が一緒に留学していた他の大学の人を連れて来てくれた。私はその人たちの韓国語を聞いて感動した。特にその中の一人の人はとてもうまく、韓国人の発音と本当に変わらないくらいうまかった。私はすごくかっこいいと思ったし、また、すごく刺激を受けた。日本人でも頑張ればこんなにうまくなれるんだ、と。そして、今蔚山大学に留学中の先輩にも会え、いろいろ話を聞くことができた。

私は今回の研修で本当に様々なことを得ることができた。そしてまた、素敵な人たちと出会い、ふれあうことができた。これらは今回の研修に参加しなければけして得ることのできなかったものばかりであると思う。私はこの研修で得たやる気をバネにして、今回得た課題をこなし、さらにレベルアップさせたいと思う。また、今回得た興味について調べたり、もっと韓国に興味を持ったりしたい。そして何よりも、今回出会った素晴らしい人たちとこれからも連絡を取り合い、良い関係を続けていきたいと思う。そしてまた、韓国を訪れたい。

出会い共に

20710142　西　里実

韓国で過ごした２０日間は、様々な経験を通して、忘れることの出来ない思い出をたくさん作ることが出来た。毎日が新鮮で、様々な発見をしたと思う。２０日間お世話になった、担任の先生や国際交流員の方、学生スタッフ、パートナーなど、本当に多くの方々に支えられたと思う。また、公立大学以外のも他の大学の人たちも来ていて、交流を深められた。今回、沢山の人と出会えることが出来た。

研修では、韓国語を学ぶ授業だけではなく韓国の伝統、文化などを知り、焼き物作り、韓国料理、テコンドーなど実際に体験することで得たものは大きかったと思う。韓国の伝統的な遊びがどういったものがあるとか、今まで知らなかったが、実際に遊んでみて興味が持てた。産業体験、韓国の歌、韓国料理を体験した。テコンドー、寺見学、弁論大会があった。テコンドーは部活でテコンドーをしている学生に教えてもらったが、日本語が上手な学生がとても多かった。しかし、私と組んでいた学生は、まったく日本が分からないとのことだったので意思の疎通が難しかった。弁論大会では担任の先生にたくさん協力していただいたお陰で、思ってもみない賞を頂くことが出来て凄く嬉しかった。

次に、授業以外の活動や行動について述べていこうと思う。まずホームスティについて。パートナーのお父さんの同僚の方の結婚式に連れていってもらった。特に印象的だったのは、チマチョゴリを着た、新郎新婦の両方の母親が、手を繋いで最初に入場した点だ。その他、日本は時間をかけて式を行うが、韓国はとても急いで式を挙げていた。更に、来客の数が日本とは異なり、多くて騒然としていたという点に大変驚いた。結婚式には今まで、自分と関わった人をほとんど、招待するようである。一生に一度の式に参列出来て、日本と韓国との結婚式の挙げ方の違いを知れた。次に、自由行動やソウルでの出来事を述べる。自由行動を利用して、釜山へ３回程足を運んだ。初めて地下鉄に乗った時に、全く分からず困っている私達は、韓国人の方に助けてもらい、人の温かさに触れた。また逆に、店員さんとぶつかり合うという体験もした。ソウルでは、独立記念館や板門店に訪れ、韓国の歴史に直に触れたような気がする。また、北朝鮮に一歩足を踏み入れたという、非常に貴重な経験が出来きた。

これまで２０日間の出来事を振り返ってみると、中身の詰まった濃い日々を過ごしたと思う。様々な経験が出来たことは、これからの人生における糧になったのではないかと思う。また今回本当に多くの人との出会いがあり、良い関係を作れたことを嬉しく思うと共に、一生忘れないでいようと思う。

肌で感じる韓国

20710164　福岡麻里

蔚山にいる間、午前中は学校で韓国語の授業を受けた。授業内容は教科書に沿って進めていくのはもちろん、日々の出来事や文化学習があった次の日はその感想を述べるなど、とにかく私たちが韓国語で話すことが中心であり、書くということはあまりなかった。文法は日本で習ったことがあるものがほとんどだったので、良い復習になった。最初は緊張しっぱなしで、話せる自信がなかったが、辞書で単語を引き、勇気を出して話してみると、先生が笑顔でうなずいてくれ、伝わったと思った瞬間とてもうれしくなった。先生が話していることも初めのうちは半分も分かっておらず、不安になったが、日を重ねていくにつれ、表現を簡単にしてくれているということもあるだろうが、だんだん分かってくるようになった。語学面において、以前より聞く力・話す力が伸びたのではないかと思う。しかし、語彙力がまだまだということを実感したので、これからさらに学習に励んでいきたい。

また、一泊二日でホームステイを行った。ホストファミリーは初めて会う私のことを温かく受け入れてくれて、感謝の気持ちで一杯だった。どこへ行っても家族はいいものであると思った。

韓国での最後の 3 日間はソウルで過ごした。初日には独立記念館へ行った。日本が韓国を植民地として支配していたことは知っていたが、実際に資料や模型などを見ると、どれも目をつぶりたくなってしまうものばかりだった。しかし、この事実は忘れてはならないと思う。その後の韓国の独立の様子も学べた。改めて日本と韓国との関係は深いなと思った。2 日目は板門店へ行った。韓国と北朝鮮の境界線を見たのだが、こんなもの 1 つで南と北が分かれているなんて、なんだか信じられなかった。すぐ近くに北朝鮮が見えていて、町らしきものがあったが、ガイドさんが言うにはそれは見せ物として作られたものらしい。なんとも言えない空気が漂う板門店であった。未だ双方は休戦状態にあるが、いつかきちんと終戦を迎え、統一される日がくることを願うばかりだ。

韓国に来てみて思ったのは、「来ないと分からないことがある」ということだ。テレビやパソコンなどでもその国に関する情報は手に入れることが出来るが、実際に肌で感じたほうが、その国について知ることができるのだなと思った。日本と似ているところもあるが、人間性には少し違いを感じた。この 3 週間で多少なりとも刺激を受けたように思う。いつかまた、海外へ足を運び、自分の内面を成長させる良い機会にしたい。

蔚山大学校

南北の境界線（板門店）

言葉が通じなくても

20610178　本田　圭

異文化実習の期間を振り返ってみると、3 週間という時間は私にとってあっという間に過ぎていった気がします。最初は韓国語という言葉の壁にかなり戸惑い、正直、話しかけられても何て言われているのか分からなかったし、分かったとしても、自分が言いたいことが上手く伝えられませんでした。それがすごくもどかしくて、韓国語が分からない自分が嫌になった時もありました。しかし、私が異文化実習の 3 週間を楽しく過ごせたのは、韓国で出会った人々がすごく親切で、優しくしてくれたおかげだと思っています。また一緒に実習に行った公立大生とも仲良くなれたことで、充実した日々が送れたと思っています。

異文化実習中にはたくさんの人々と知り合いました。中でも、パートナーをしてくれた子と、ホームステイ先のオンニと仲良くなりました。パートナーの子とは、言葉が通じないので辞書を使って会話をしました。辞書を通してなのでたくさんの事を話すことはできませんでしたが、恋愛やドラマの話しなどすることで、二人の距離がぐっと縮まったのを感じました。

またこの 3 週間の研修で、ホームステイが一番印象に残っています。ホームステイでは、サムゲタンを食べに行ったり、釜山のアクアリウムに行ったり、オンニの友達とご飯を食べに行ったりしました。オンニは日本語がとても堪能なのでいろいろな話をすることができました。しかし、せっかくホームステイをしたのに韓国語が分からないために、オンニの妹や両親とは、ほとんど話すことができませんでした。それにも関わらず、私が寄宿舎に帰るときに、オンニの小学生の妹が、私が帰るので寂しくて泣いてくれたことや、お母さんやお父さんがとても寂しそうにしていたのが、今でも忘れられません。オンニやオンニの家族が、私を本当の家族の一員ように想い、私に接してくれたことに大変感動しました。

私が韓国で出会った人々は、本当に良い人ばかりでした。そのおかげで、韓国語という言葉の壁や文化の違いを乗り越え、お互いの心を通わせることができたのだと思っています。この研修を通し、人の優しさや、自分の周りの人がどれだけ自分を支えてくれているのか、ということを痛感できました。研修に参加することが出来て本当に良かったと思っています。それとともに、出会えた全ての人に感謝しています。정말로 감사합니다. 또 만나요！！

ホストファミリー（撮影者：アッパ）

사랑하는 한국!!

20710180　前田沙世

私はソウルオリンピックを母のお腹の中で観戦し、小学生の時初めて知り合った外国人が韓国の方、そして「てげ」や「ひんだれた」など韓国語を起源に持つ方言を使う宮崎で生まれ育ち、『冬のソナタ』が日本で初めて放送された時からはまり一足先に韓流ブームに乗った、何かと韓国に縁深き人物である。

そんな私が一番心配していたのは反日感情であった。アメリカ産牛肉の輸入反対に始まったデモはその後李明博 OUT、独島をめぐる日本の教科書問題へと発展した。韓国からの小中高生の交流団の来日は次々と中止になるなか、このようなタイミングで行って大丈夫だろうかと思っていた。しかし実際に足を運んでみるとデモもやっていないし、表立って反日感情を出す人もいなかった。ソウルの方がやや日本人に対して敏感だったが、特に嫌がらせを受けることなく過ごした。

８月22日に行った独立記念館では大きなショックを受けた。日本では教えられない残酷な日本軍の行いを目の当たりにして、言葉を失った。この歴史の事実を日本はきちんと受け止め、学校教育で近代史をしっかり教えなければならないと思う。沖縄戦や軍艦大和、原爆投下など被害者の立場ばかりが語られ、多大な被害を与えた加害者の顔はひた隠す、そんなことではいつまでたっても誰が首相・大統領になっても日韓の溝は埋まらないと考える。私は塾の講師をしているが、「終戦記念日はいつ？」と聞くと「知らない」という言葉が多数返ってきた。一方私達が行った日も館内を走り回るぐらいのまだ小さい子供たちが、見学に来ていた。その光景を見て教育の温度差を感じ、また反日感情が沸き起こるのも何となく分かる気がした。

もちろん楽しい思い出もたくさん出来た。パッピンスを5回ほど食べ、混ぜることに抵抗がなくなり、パートナーがなぜ李明博が不人気なのかを教えてくれて、なるほどと納得した。ドラマのように坂と路上駐車、車線変更が多く、人目をはばからずにスキンシップやペアルックをするカップルに驚いた。普段実家暮らしの私には親元を離れて、友達と共同生活をするのも楽しかった。今回自由行動はほとんどショッピングに費やしたので、次韓国に行くときは景福宮や焼失した南大門、ドラマのロケ地など観光を楽しみたいと思う。

日本に帰ってきて、韓国語に対する勉強意欲が一段と強くなった。今は歌をたくさん聞いて単語を覚えようと努力している。ドラマと映画を1つずつ見たが、日本語字幕があれば行く前よりかなり聞き取れるようになり、意訳している箇所も分かるようになった。この3週間で若干ではあるが語彙も増え、自分自身少し大人になったような気がした。日本で過ごすよりはるかに充実した夏休みを送ることの出来た韓国での経験を種に、これからも勉強という水を与え続けて、いつかは宮崎と韓国に「前田沙世」という品種の花を一つずつ咲かせたいと思う。

ストレートで温かい

20610188　松田侑果

蔚山で過ごした３週間は、自分にとっていい刺激と経験を与えてくれました。自分にとって初めての韓国ではありませんでしたが、旅行や研修では見ることのできない部分を多く見ました。この実習期間を終えて感じたことは３つあります。

まず１つ目は、授業についてです。授業は朝の９～１２時、１４～１７時でした。日本では週１回の９０分という、とても短い時間だったので毎日ハングル漬けになることに少し不安を感じていました。しかし、わたしはレベル３のクラスだったのですが、自分の学力を恥じることなく質問ができ発言をする機会が多かったので、実に充実した授業を送れました。宿題も他大学の人のペアになって終わらせたり、自分一人の勉強というより人と学びながら身につけるという作業が多かったように思えます。日本の授業は文法がメインで会話をすることがほとんどないので、そのような時間を設ければ使える韓国語を身につけられるのではないかと思いました。

次に２つ目は韓国の人柄についてです。韓国の人、特に釜山や蔚山の人は情が厚い人が多いとよく聞きました。本当に優しい人が多かったです。大学のスタッフの方々は、本当によくしてくださいました。大袈裟な言い方になるかもしれませんが、まるで家族のような感じです。そんな韓国人の影響を受けてか、わたしたち研修生同士も仲間意識が強くなっていき、より親しく素の自分でいられる関係になったような気がします。なかなか自分の気持ちをストレートにできない私たち日本人にとっては、少しうらやましく感じることもありました。例えば、韓国ではペアルックのカップルをよく見かけました。日本でペアルックなんて見る機会はほとんどありませんし、なかなかできるものではありません。人の目が気になって恥ずかしいです。でも、韓国の人は愛情表現が豊かで表に出そう出そうとします。同じアジア人なので、最初は違和感を覚えましたが慣れていく内にうらやましくなりました。研修の最後あたりでは、研修生同士でもスキンシップが多くなったりして、韓国らしくなっていました。韓国の文化が気付かないうちにしみ込んでいました。

最後に日本と韓国の共通している部分についてです。言葉の中にも日本語と似ている単語などがいくつかありますが、特に多いのは文化です。街中を見ても日本の映画の広告、雑誌など日本文化が多く入っています。若者は日本文化を意識している人が多いようです。このおかげで、パートナーなどともいろんな話をすることができました。

このように、蔚山での異文化実習は語学学習だけではなく文化を知ることによって、自分の語学向上によい刺激になったと思います。また研修でお世話になった公立大の学務課の方、蔚山大学のスタッフの方には本当に感謝します。無事研修が終われて本当によかったです。そして、韓国語に対するモチベーションが下がらないようにこれからも勉学に励みたいと思います。

한국 최고!!

20610189　丸山沙織

3 週間、本当に短くて濃い毎日だった。充実した日々が遅れたことに感謝する。今回、2 回目の研修参加である私は、現地での生活に新鮮さをあまり感じなかったが、その場所でしか味わえない生活に浸ることができた。

まずは授業について。蔚山大学では、午前中に韓国語の授業があった。全部韓国語で行われたので、学生のためによい環境だったと思う。教科書を中心にバランスよく学ぶことができた。語彙が少ない私たちのために、先生はやさしい辞書のように、とっても分かりやすい言葉で授業を進めてくれた。最終日にあった弁論大会のためにも、発音練習や推敲を繰り返し付き添ってくれた。3 週間、楽しい授業をしてくれた先生、정말 감사합니다！

次は、パートナーについて。私のパートナーになったドヒは同じ年の女の子で、今年公立大に留学に来ている人である。日本語が堪能で、賢くて剽軽な子だった。ホームステイの時、自由行動の日、平日までいつも明るく楽しく接してくれた。1 カ月、楽しく過ごせたのは、彼女のおかででもある。これからもずっと仲良くしたい。

最後は、韓国語について。2 年前に行った時と比べると、だいぶわかるようになった韓国語。夜、友達と食べに行く時、誰かにものを尋ねる時、この人と話したいな！と思う時。様々な場面で使うことができた。知っている単語が限られているのは事実だが、それをいかに表に出して、可能な限りコミュニケーションを取るかが最大の課題であった。初めは、なかなか自然に言葉が出てこなくて、上手く話すことができなかったが、毎日韓国語と触れることによって、使うことが楽しくなった。言葉として出すことに喜びを感じていた。
例えば、寄宿舎の売店にいた可愛らしいおばちゃんと話したとき。私が、「風邪を引いて、鼻水がヤバいのです！！」と言ったら、「あら～じゃこれ（パッチ）をつけてあげる。これはね、鼻水がとまらないときは目の下と鼻の中間に貼るといいんだよ。」と私の顔にぺたっと貼っていくおばちゃん。すごい、なんか熱い！と思いながらも、아준마の優しさに浸りつつ時間が過ぎていった。が、しかし、同じ部屋のゆかりちゃん（島根県立大）に「鼻水ひどくなってない？」と指摘された。「あっ、やっぱり。」と私。笑いながら、剝した。
このように、さまざまなエピソードがあるわけだが、他の子も負けないほど、面白い体験をしたのではないだろうか。一人ひとりが、楽しく、思い出深い時を過ごした。これから行く人にも、ぜひお勧めしたい蔚山大学の短期研修。語学の面でも、異文化体験の面でも、すばらしい経験ができる。さすがに、4 年生では行けないだろうが、また蔚山に足を運ぶ時が来たらいいと思う。

感謝の日々

20710211　能野あすか

私は今回韓国に行って本当に良かったと思っています。振り返ってみるとこの３週間は笑いの絶えない日々でした。もちろん最初は不安もあったしカルチャーショックを受けて戸惑うことが多かったです。だけど過ごしていくうちに不安も無くなり韓国の生活に慣れ、楽しい日々を送っていました。

韓国ではいろんな体験ができました。授業では伝統的な遊びをしたり、チマチョゴリを着たり、料理を作ったり、歌をうたったり、お寺などを見に行ったりとたくさんのことをしました。その中でも楽しかったのが、韓国の伝統的なスポーツ、テコンドーをしたことです。初めて格闘技系のスポーツを経験しました。準備運動から腕立てや背筋、走ったりブリッジをして激しかったです。次に基礎のキックの仕方を習いました。キックはただ蹴るだけじゃなく、コツがいり難しかったです。テコンドーを習っている生徒たちからもやさしく教えてもらいました。声を出しながらキックしたら生徒さんから褒められたりしてすごく楽しいでした。最後に板に自分の願い事を書きその板を割ることをしました。割れるかどうか不安だったけど割ることが無事できました。とても暑かったけど、すごく楽しかったです。できたら日本でもやりたいと思えました。

また韓国ではたくさんの人たちに出会いました。たくさんの人たちに感謝していますが、特にパートナーと先生に感謝しています。パートナーは私にいろいろと韓国のことを教えてくれました。私のパートナーはすごく優しくてかわいかったです。パートナーや友達と一緒に街や遊園地に行ってたくさん遊びました。パートナーはいつも私のことを一番に考えてくれました。お昼においしい弁当も作ってきてくれてとっても嬉しかったです。ホームステイのときも家族みんながすごく優しくて楽しい土日を過ごせました。すごくつくされました。ちょっとの間だけだったけど本当の家族になれたと思います。私たちのクラスの先生はすごく私たちのことを考えてくれて、私たちのことが大好きという気持ちが伝わってきました。いつも生徒の気持ちになってくれ、明るくて面白くて授業が楽しかったです。こんな先生はなかなかいないと思いました。私はパートナーも先生も大好きです。

韓国に行って本当に楽しかったです。たくさんの人たちに出会って、日本では経験できないことも体験できました。最初３週間は長いと思っていたけど過ぎてみると、本当にあっという間でした。韓国語が分からなくてあまり人と話せなくて、もどかしい思いをして悔しかったです。韓国語はやはり難しいと実感したけど、もっと頑張ろうとすごく思いました。今度くるときは絶対に、もっとしゃべれるようになってから行きたいと思います。韓国で過ごした日々は一生忘れられない思い出になりました。韓国を知ることができ、韓国をすごく好きになりました。韓国人の人たちはノリが良くて本当に優しい人たちばかりでした。私は韓国の人たちが大好きです。本当にみんなと出会えて嬉しかったです。別れるのは悲しかったけどまたみんなに出会えると信じています。この３週間は私にとってすごく大切な思い出になりました。またこの異文化実習に参加したいです。

３週間の宝物

20710219　渡邉浩子

韓国での３週間は短いようであっという間でした。始めの１週間くらいは、初めての韓国で慣れない事もあり慌しく過ぎましたが、慣れてきた頃には楽しいことばかりで毎日が過ぎるのが早く感じました。

今回の異文化実習に参加して、実際に外国に行き、そこで生活することによってその国の文化をよく知ることができるんだということを実感しました。韓国に観光としてでなく３週間生活するために行ったことで韓国の日常を体験することができました。毎日大学に通い、帰りはそれぞれバスで寮に帰り、昼食と夕食はそれぞれでとりましたし、ホームステイもしました。

ホームステイは、韓国の一般家庭を見ることが出来るのでとても楽しみにしていましたが、少し不安も感じていました。私の韓国語の実力はまだまだ未熟なので、ちゃんと家族とコミュニケーションができるかどうか心配でした。その不安は的中し、満足に会話できないことが多々ありました。そんな時は私のパートナーが日本語がとても上手だったので、助けてもらいながら何とかコミュニケーションできました。会話は上手にできませんでしたが、家族の皆さんにはとてもよくしていただきました。私が事前に食べたいと言っていた料理を全て用意してくれましたし、韓服が着たいといったら３着も着せてくれて、そのうちの１着を記念にとプレゼントしてくれました。親切に温かく接してくれてとても感激しました。

韓国人は情に厚い国民だと聞いていましたが、その通りだなと思いました。蔚山大学の先生やスタッフの方々、街で会った韓国人はみんな親切で、楽しく３週間を過ごせました。韓国人の先生が「韓国人は気持ち的にも肉体的にも距離が近い」とおっしゃっていました。友達同士でもハグをしたり、女の子同士でも手をつないだり、写真を撮るときに手を腰に回したり、日本には無いスタイルがあり、そんな違いも知ることができました。

とても充実した３週間でしたが、自分の韓国語の未熟さを実感した時でもありました。韓国語で話しかけられても聞き取れずに答えられないことがあり、悔しい思いをしました。もっと勉強しなければいけないと改めて感じました。これから勉強するにあたっていい刺激になったと思います。貴重な時間を過ごすことができ、異文化実習に参加して本当に良かったと思いました。

研究テーマ
レポート

韓国の交通事情

20710027　宇戸麻佑子

私は、今回の研修で韓国の交通事情について調べた。

○　右車線

韓国と日本の大きな違いは、韓国は右車線で車が走っていることだ。日本は左車線なので、少し違和感を感じてしまう。

○　韓国の大学生の交通事情

韓国の大学生の登校手段

日本の大学生のほとんどは、一人暮らしなら自転車で登校して自宅生なら車、バス、電車などその距離に応じてさまざまな手段で登校している。

韓国の大学生は、ほとんどの学生がバス通学だった。電車通学という学生は私が聞いた中ではいなかった。

○蔚山宮崎の交通事情の違い

蔚山に言って驚いたのは、とにかくバスの料金が安いことだ。韓国のバスには２つの種類がある。

입석버스…いわゆる普通バス　距離に関わらず料金は一律１０００ウォン（日本円で約１００円）
日本で走っている普通のバスと同じ

좌석버스…座席バス　同じく距離に関わらず料金は一律１５００ウォン（日本円で約１５０円）
日本の高速バスのような車内で、比較的長い距離を移動するときに利用する

☆なお蔚山から釜山に行くときは、バス１８００ウォンと地下鉄１３００ウォンの片道３１００ウォン（日本円で約３１０円）で気軽に行くことができる。

○タクシーの利用

韓国の大学生はよくタクシーを使っている。それが、日本の大学生との大きな違いだと思う。それはやはりタクシーの料金が安いからであろう。

日本では大学生がタクシーを使うことはあまりないが、韓国では友達と乗っていくときは、１０００ウォンのバスを利用するより逆に安いこともあるので、学生が移動手段の一

つとして気軽にタクシーを使っている。

一般的に韓国の運転は荒いといわれている。確かに初めて韓国に行ったときは、運転の荒さに驚いた。特に韓国のバスは日本のバスに比べて、スピードも速いし運転も荒く感じる。実際に韓国は交通事故が多い国らしい。韓国に行ったらぜひバスに乗って日本との違いを実感してほしい。

韓国人学生の英語学習に対する意識

20610081　　小橋　彩

韓国は世界的に見ても英語教育の盛んな国である。それは日本メディアの「韓国の英語教育」を扱った報道からもうかがえるが、私は研修中に現地で見た様々な光景からもそう感じた。まずホームステイ先にいた小六の女の子が夏休みの宿題で英語の問題集を解いているのを見て、韓国では小学校から英語教育を受けるという事実が自分の中で実感に変わった。また何気なく街を歩いているときにも英語学院（塾）の送迎バスが子供たちを乗せて走っているのをかなりの頻度で見かけたし、蔚山大学の付属図書館に足を運んでみればそこで大半の学生が机の上に TOEIC 対策の参考書や問題集を広げて勉強していて、日本の大学生との違いに驚いた。

なぜ、韓国はこれほどまでに英語教育に力を入れているのか。それは、韓国が人材を国の第一の資本と考えているからである。日本と同じように石油などの資源が自国でとれない韓国にとって輸出入は不可欠であるし、また貿易以外の面でも、ビジネスで海外を相手に会議や交渉を行う際には、英語を話せることが大前提として必要になる。例えば日本企業の場合、日立製作所などは TOEIC スコア 800 点（990 点満点）と高いスコアを要求されるが、新入社員や一般社員に高得点を課している企業は意外に少ない。これに対して韓国では、一流企業に入るためにかなりの TOEIC スコアを必要とする。HYUNDAI では、採用試験の足きりがなんと 800 点だという。実際に入社する社員の平均点は 900 点を超えるというから驚きだ。他にも、SAMSUNG や LG 電子の新入社員平均点も 900 点となっている。これは「実用性のある英語」のレベルを、日本より韓国が高く考えている証といえる。これらのことを踏まえると、「韓国では、英語ができるのとできないのでは就職に大きく差がつく」となぜいわれているのか容易に理解できるだろう。

では、韓国の学生たち自身はどのような意識をもって日々の英語学習に取り組んでいるのだろうか。研修中知り合った韓国人学生の何人かに尋ねてみた。やはり大学生ともなると就職を意識するらしく、英語力を就職活動の強みにするために学生の五割は語学力向上をはかって英語圏に数ヶ月間留学したり、ソウルの学院（塾）に通って猛勉強したりするそうだ。興味深かったのは、留学で数ヶ月間英語圏に身をおくよりもソウルの学院で勉強した方が TOEIC で高得点がとれる、という話である。実用的な英語力を身につけるには留学が一番良い手段なのだろうが、TOEIC で高点数を得ることにこだわるなら留学するのと同じぐらいの費用でもソウルの学院に通ったほうが効率的なのだそうだ。しかしながら、TOEIC 用の勉強に固執して英語学習を続けた結果、ハイスコアをもっているにも関わらず英語が話せないという学生も少なくないようである。

彼らの話をきいていて印象強く感じたのは、「ほとんどの学生が義務感から英語を勉強している」ということである。小学生では「親がやれというから」、中高生では「大学に入るため」、大学生は「よい企業に就職するため」というのが、英語学習をする一番の動機づけとなっているようだ。その中には「英語は苦手だけど、免れないし…」と嫌々ながら学習

を続けている学生もいる。私は中学校で英語が好きになり、英語関連の勉強がしたいという気持ちから宮公大を選び英語ゼミを選んだが、今まで TOEIC スコアに縛られたというような記憶はなく比較的のびのびと勉強してこれたと思う。それには、自分が日本の学生だからというのも要因としてあるのだと初めて気づいた。韓国の学生たちが必ずしも「英語が好き」という気持ちから勉強しているわけではないという状況を知ると少しさみしい気持ちにもなるが、英語に限らず小学生も中学生も高校生も「近い将来のために」という意識を念頭に置いて勉強をしている点では、日本人学生と共通しているものを感じる。

韓国の恋愛について

20710138　　中村　紫のぶ

韓国では記念日がとても大事にされる。1 年記念日やバレンタインデー、ホワイトデーはもちろん、韓国には 100 日記念日、200 日記念日…、初雪記念日などがある。ホワイトデーの日には大きなぬいぐるみを抱えた人や大きな包みを持った人、花束を持った男の人たちが学校の門の前や駅の前で彼女を待っているんだとか。また、100 日記念日には男の人がバラの花束を送ったり、お互いが様々なプレゼントを送りあったりするらしい。確かに街中には花屋やとても大きなぬいぐるみを売る露店などがたくさんあった。100 日や 200 日は携帯電話についている機能が知らせてくれるようだ。また、韓国にはイベント代行業者というのがいて、記念日なんだけどどうしても仕事で会えないなどという人のために、その人の代わりに手紙を渡してくれたり、歌を歌ってくれたりと様々なお手伝いをしてくれる業者がいるそうだ。韓国には「初雪の日に出会った人と結ばれる」、「初雪の日にデートをしたカップルは幸せになる」といった言い伝えが数多くあるそう。実際に初雪が降ると恋人達はみんないっせいに電話で会う約束をするので携帯電話がつながりにくくなることもあるのだとか。また、逆に電話をしないと別れる原因になってしまうこともあるらしい。他にも韓国では毎月 14 日に恋愛がらみのイベントがあるそう。バレンタインデー、ホワイトデーはもちろん、ブラックデーやシルバーデーなど様々なおもしろいイベントがあるがすべての人が実行するわけではないらしい。

また、韓国のカップルたちはスキンシップがスゴイ!!街を歩いているカップルたちはみんな腕を組んだり、肩を組んだり、腰に手をまわしたり……。バスや電車の中でもずっと手をつないで話していたり、と誰が見てもすぐカップルとわかる感じであった。そしてなんといってもペアルックのカップルがかなり見かけられた。日本でペアルックといって想像できるのはせいぜいアクセサリーや帽子などのアイテムが同じであったり、上の服（Ｔシャツなど）が同じであったりというくらいだが、韓国では上から下まで全く一緒というカップルも少なくなかった。また、ペアルックの種類もたくさんあり、デザイン・色ともに同じもの、デザインが同じで色違いのものだけでなく、２枚で一つの絵になるＴシャツなども数多く売っていた。たとえば一方にハートの半分がプリントされ、もう一方には残りがプリントされて２人がくっついて歩くとハートが完成するというようなデザインもあるらしい。ファッションビルに行ったとき、売り場案内に「○Ｆ、ユニセックス売り場」と書いてあった。韓国ではどんな服がユニセックスとして着られているのかと期待して行ってみるとそこにはなんとペアルックがずらりと売られていた。私の期待は少し裏切られたが、そこには本当にたくさんの種類のペアルックが売られていた。韓国ではカップルだけでなく、仲のいい友達同士でもペアルックを着る人がいるらしい。

このほかにも韓国にはたくさんの恋愛事情がある。興味のある人はいろいろ調べてみるのもおもしろいかも…。

韓国ＢＢクリームについて

20710142　西　里実

私は、おネェ man's という番組をみて、韓国の美容コスメであるＢＢクリームの存在を知った。昨今、韓国で大人気の BB クリーム、ＢＢクリームと書いて、そのままビビクリームの愛称で親しまれている。日本では，テレビの影響でエチュードハウスのＢＢクリームがよく紹介されているが，最初にＢＢクリームを世に知らしめたのはＨＡＮＳＫＩＮ社のＢＢクリームであった。ハンスキン社はＢＢクリームだけでも５種類以上ある。ＢＢクリームのＢＢは『Blemish Balm（ブラミッシュ　バーム)』の略で、直訳でいうと傷を補う香油で損傷した肌を落ち着かせるクリームである。韓国ではＢＢクリームは芸能人も使用していることから、芸能人化粧品とも呼ばれている。もともとはやピーリング（たまりに溜まった古い角質を取り除き、本来の新しい角質を取り戻すこと）など皮膚科手術の後に、刺激を受けて敏感になった皮膚を落ち着かせ、沈静化し保護膜を形成して、外部の刺激から皮膚を保護するために作られたクリームだそうだ。ＢＢクリームはこのように皮膚科などで使われていたクリームで、韓国でも以前までは一般には販売されていなかったようだが、昨年から一般にも販売され、一気に人気が出たようである。韓国で実際によく目にした会社は、ミシャ、エチュードハウス、ハンスキン、イッツスキン、スキンフードであった。街を歩けば、何件も同じような店を目にした。

次は、ikko さんがおネェ man's で紹介して人気となった、「ETUDE House」についてである。「ETUDE House」のＢＢマジッククリームは、ピーリング後、仕上げ段階で塗ることで、敏感になった皮膚を落ち着かせ、保護膜を形成することで外部の刺激から皮膚を守る。短期間でＢＢクリームが人気を呼んだ最も大きい要因はカバーが可能で、メーキャップでも使用できるという機能性である。ＢＢクリーム１本ですばやくナチュラルメイクが完成出来る。カバーだけでは無く、皮膚トラブルもしっかりフォローするので長い間化粧していなければならない女性にぴったりである。BB クリームは重ね塗りをしても厚ぼったくならないので、化粧直しが何回でも可能。化粧下地、ファンデーション、ダメージケアとオールインワンクリームで有名である。店自体は、ピンクを基調としたお店であった。「ETUDE House」のインテリアは家に帰ってきたような、楽な気持ちで買い物ができる空間を演出しているようである。家に帰れば、家の中に寝室や浴室があるように、店内に「バスルーム」「ベッドルーム」などのコーナーが設置していて、かわいらしい飾り付けをしていた。それぞれの場所で使える商品を配置してあった。全体的にお姫様が持っている人形の部屋を連想させるようなインテリアになっていた。ここで買い物をするだけでみんながお姫様になれるようなムードでいっぱいの店だった。店員さんは「いらっしゃいませ」の後に、「お姫様」と続けて言っていた。

実際に韓国で、お店に入って感じたのは、店ごとの特色がかなり表れて思った。私は今回 BB クリームについて調べてみたが、その他の化粧品も目を惹くものがたくさんあった。お店に入る前には必ずといっていい程、サンプルをもらった。街の通りにも化粧品の店が

建ち並ぶのは、韓国人女性がいかに美容に気を配っているかが分かった。また、BB クリームがこんなにも売り出されている訳が分かった。BB クリームが日本でも人気があることから、日本人観光客に向けての、宣伝も多く見うけられた。

韓国の食べ物

20710164　福岡麻里

私が韓国にいる間に食べたものを、いくつか紹介したいと思う。

まずはカムジャタンという、じゃがいもと豚の背骨を煮込んだ鍋料理である（写真 1 参照）。鍋にはじゃがいもが丸ごと入っていることが多く、見た目にも迫力がある。背骨は、手で持ってかぶりつき、背についた肉をそぐようにして食べる。食べるのは大変だったがおいしかった。

次にチムタクという、ぶつ切りにした鶏と、野菜、春雨を甘辛いしょうゆ味で仕上げた煮込み料理だ（写真 2 参照）。野菜類を煮込むときに刻んだ唐辛子を入れるため、見た目よりも辛い。煮込むときにタンミョンとよばれる韓国春雨を下に敷くため、煮汁を吸った春雨のおいしさも味わえる。これは蔚山の同じ店で 3 回も食べた。辛くて唇の周りがヒリヒリしたのを覚えている。

3 つ目に紹介したいのがキンパプだ（写真 3 参照）。これは韓国式のり巻きで、日本人にとってのおにぎりのような存在として親しまれているご飯料理である。見た目は日本の太巻きとよく似ているが、ご飯はごま油と塩で味付けをしたものが使われ、具も日本とは異なる。このキンパプにはとてもお世話になった。疲れて食べに行く元気がない時には、キンパプをテイクアウトして良く食べたものだ。

そして 4 つ目にはピビンパプという、盛り付けられたご飯の上に、ごま油と塩で味をつけた野菜や山菜のナムル、牛肉のそぼろといった具材を彩りよく並べた韓国のどんぶりご飯を挙げたい（写真 4 参照）。いろいろな調味料を用いて味に重なりを持たせるのが韓国料理の特徴で、ピビンパプを混ぜて食べるのも、味の重なりを楽しむためと言われている。私は石焼しかないと思っていたので、普通の金属のお椀と 2 種類あることを知り、驚いた。

これらに加え、タッカルビも紹介したい（写真 5 参照）。これは、ぶつ切りにした鶏もも肉と、きゃべつ、玉ねぎ、にんじん、さつまいもなどの野菜に、甘辛いコチュジャンベースのたれをかけて、円形の鉄板で炒めた料理である。鉄板上のタッカルビが残り少なくなった時点でご飯を頼むと、店の人が、白菜キムチやエゴマの葉、のりなどを加えて、ご飯と一緒に炒めてくれる。甘辛いたれと香ばしく焼けた鶏肉はご飯との相性抜群で、タッカルビの締めには欠かせない。タッカルビ自体ももちろんおいしいのだが、締めに食べるご飯（写真 6 参照）がさらにおいしかった。

最後に紹介するのがサムゲタンという、若鶏のお腹に、もち米や高麗人参、なつめなどを詰めて煮込んだ料理だ（写真 7 参照）。漢方のエキスによる滋養強壮に加え、ビタミン A やコラーゲンを多く含む鶏肉の美容効果も期待できる。韓国では夏のスタミナメニューとして定番で、特に夏の間、3 回の「庚の日」に食べる習慣がある。食べるときにかなり汗をかくが、確かにこれなら暑い韓国の夏も乗り切れそうだと思った。

写真 1：カムジャタン

写真 2：チムタク

写真 3：キンパプ

写真 4：ビビンパプ

写真 5：タッカルビ

写真 6：締めのご飯

写真 7：サムゲタン

異文化実習調査レポート　～韓国の家族について～

20610178　本田　圭

調査内容

1 日に 1 以上の韓国人に家族構成を聞く

質問内容

1. 何人家族ですか？
2. 誰と一緒に住んでいますか？
3. 一緒に住んでいる人の年齢は？
4. 両親はいつ結婚しましたか？
5. 祖父母は近くに住んでいますか？

(6. なぜ別々に住んでいるのですか？)

7. 両親に兄弟はいますか？
8. 兄弟の年齢は分かりますか？

調査人数

蔚山大学生を中心に全部で 30 人

調査結果

蔚山広域市が現代自動車の工場がある工業都市のためか、30 人中 2 名しか祖父母と一緒に住んでおらず、かなり核家族化が進んでいると感じた。なぜ別々に住んでいるのかを尋ねてみると、父親が長男ではないからという人もいたが、多くの人は仕事がウルサンにあり、祖父母は故郷に住んでいるから、という回答が多かった。職業のためにウルサンに移ってきて、核家族の形態になったのではないかと感じた。また最近の傾向なのかもしれないが、祖父母だけで住んでいる理由の一つに、お互い別々のほうが楽だから、と答えた人もいた。

感想

卒論の研究の影響もあってか、韓国では儒教の教えが大きいため、両親の面倒を見ない人は親不孝者である。そのため、結婚しても、ずっと両親と暮らして行くものだと思い込んでいた。もしかしたら、ウルサンが特別なのかもしれないが、インタビューしてみると、韓国でも核家族化は進んでおり、結婚しても両親と一緒に住んでいる人はほとんどいないようだった。結婚後の両親との別居についても、職業のため、お互い気にする必要が無く楽だから、などと理由がかなり日本と似ているように感じた。

インタビューをしていて、親族をかなり大事にする面を伺えた。しかし、大学生たちに両親の兄弟について聞いてみると、人数があやふやだったり、年齢をよく知らなかったりと、少し矛盾点もあった。また、家族の意味合いが少し違うようで、祖父母について質問をすると、たいていは父親の両親について答えてくれ、質問からは母親の両親をイメージしないようだった。結婚したら女性は男性の家に入る、という意識がいまだに残っているから、そうなるのではないかと思い、面白いなと感じた。

韓国のお風呂事情

20710180　　前田　沙世

８月４日、寄宿舎に到着して真っ先に確認したのがバスルームだった。話には聞いていたがバスタブがなく、トイレを通り越して洗面台の下の排水口に流れていく、というシステムだった。初めの数日は狭い空間で立ちっぱなしでシャワーを浴びることが窮屈に感じられた。

一週間目の週末はホームステイだった。私のパートナーは学校から車で20分ぐらいのところにある、アパートの12階に住んでいた。夜両親がシャワーを勧めてくれたので「お先にどうぞ」と言うと、昨日公衆浴場に行って来たから今日は入らないとの事だった。パートナーは公衆浴場が嫌いだそうで、シャワーで十分と言っていた。バスタブはあったがお湯は溜めず、そのため洗濯物が置いてありシャワーを使わない時は半分物置状態だった。

８月19日朝学校に向かうバスの中で「今日からガス工事のため、３日間お湯が出ません」と学生スタッフに言われた。それを聞いた研修団の第一声は「えーっ」、そして私は今日どうしようかと考えていた。お湯が出ないということがややストレスに感じ、憂鬱な気持ちになった。しかし幸いにも私達が滞在していた5階と6階はお湯が出るということになり、一安心した。蔚山での最終日にあった宮崎公立大学だけの送別会の席で、3週間生活を共にしたスタッフの女子学生にこの一件のことを聞いてみた。すると韓国人はそれほどシャワーに関して気にしないので、日本人の反応にびっくりしたという答えが返ってきた。また浴槽につかると前に入った人の汚れが付きそうな感じがすると語っていた。

このような体験から、私なりにお風呂について定義付けてみた。まず韓国では「汗を流すもの」であると思う。ゆっくり入りたいと思ったときには公衆浴場に行けばよいという感覚である。一方日本では「疲れをとるもの」である。体を洗って汗を流すだけでなく浴槽につかることにより、足を伸ばしてゆったりとした時間を過ごす。日本に帰って自宅のお風呂に入った瞬間、開放的な気持ちと今まで溜まっていた疲れが混じった「あ゛―」という声が思わず出た。

「郷に入っては郷に従え」という言葉がある。韓国に着いてから数日はルームメートと「座ってシャワーを浴びたい」など不満をいろいろ言い合っていたが、そのうち慣れてきて最後の方は何も思わなくなっていた。異国で暮らす時は、その国の人がしているようにするのが最善なのだなと感じた。逆にパック旅行で個人的に韓国に来ていたら滞在期間が短いため、不満を不満のまま日本に持ち帰っていたことだろう。今まで異文化理解と言ったら机上の議論だけだったが、3週間生活して、理解とは大げさなことではなく今回のお風呂のように小さな違いを自身が認め受け入れることから始まるのだと学習した。

軍隊と恋愛

20610188　松田　侑果

日本にはない徴兵令制度。韓国の男子は満１９歳になると軍隊に行かなければなりません。徴兵検査を受け、検査に通った場合は陸軍・海兵隊、海軍、空軍とともに２年弱の兵役が義務付けられています。２０代の青春の延長のようなこの大切な時期、これからだという時に兵役に行かなくてはならないので、若者、特に男子たちの最大の悩みと言っても過言ではないでしょう。そこで、わたしは研修期間中に何名かの男女に質問をしてみました。質問内容は１０個で、主に男性向けの質問です。

質問の結果、想定外の答えがいくつかありました。まず、軍隊に入隊する時は恋人がいる人が半分ぐらいいるそうです。しかし、もちろんその９０パーセントは服役中に別れてしまいます。恋人の連絡手段は主に電話や手紙で、電話の場合、階級が上がらないとなかなか電話をすることができないそうです。軍隊にパソコンを持っていくことは禁止で、軍隊内にあるパソコンを使います。数は少ないようです。恋人とのデートは普通のカップルと変わらない内容です。しかし、現実はうまくはいきません。服役中・服役後にも続くカップルは０、０１パーセントと言われています。別れる理由は様々ですが、彼女が寂しさをこらえ切れずに別れを選んで他の男性と付き合うというパターンが多々あります。そのことから、韓国の言葉で、『ゴム靴を逆さに履く』 という言葉があります。これは軍人たちの中でよく使われる表現ですが、チマチョゴリ（女性用の民族衣装）を着る際に履くゴム靴の事を言い、『ゴム靴を逆さに履く』 というのは伸び縮みするゴム靴を前後ろ逆さまに履くという事で、彼氏を捨てて慌てて彼女が逃げていく様子を表したもので、意味としては 『心変わりする』 という意味になります。これは言葉を見てお察しの通り、『新しい恋人に乗り換える』 という意味です。簡単に言うと、約２年サイクルでまるでローテーションかのようにメンバーが変わるという事になります。『靴を履き替える』 というのはまさに大体が学校に残った女子とこの復学生の先輩との恋愛になる事が多いようです。実際に、質問した学生の何人かはこのパターンでした。

また面白い答えの中には、服役後は女性の好みが変わるというのがありました。聞いた学生の答えは、以前はかわいい女性が好きだったのに服役後はセクシーな女性を好むようになったそうです。理由は、軍隊は男しかいないので自然と刺激のある女性を好むようになったそうです。わたしの意見としては、服役を終えることによって精神的にも肉体的にも大人になるからではないかと思います。

質問をする前は、こんなに一番楽しい時に軍隊に行くなんて可哀想だと思っていましたが、実際、多くの学生は服役してこそ本当の韓国の大人の男性になれると考えており、逞しさが感じられました。日本でこの制度があったら、日本の婚姻や出産も大きく変わると思います。大変かとは思いますが、これから軍隊に入る男性も帰りを待つ女性も楽しんで過ごしてほしいです。

韓国の伝統楽器教育

20610189　丸山沙織

日本と韓国の伝統楽器は、似ている楽器が多い。その理由としては、昔から日韓の文化交流が見られていることと、土地的に環境が近い点にある。同じアジア圏の中でも、楽器に共通点が多い国の一つである。例えば、伝統楽器は主に２つに分けることができる。一つは宮廷楽器、そして二つ目は民族楽器（農学などで用いる）である。都市文化と農村文化、それぞれの生活レベルで、音の世界が繰り広げられていたのである。

今回の研修で、調べようと思ったテーマは音楽教育についてである。日韓の伝統楽器教育がどのように異なるかを知るためである。音楽の歴史が深いといっても、現実的に考えると、後継者問題や知名度は両国にとって難しい課題となっている。

日本では、2002 年から小中学校の音楽の授業に和楽器教育が導入された。そのため、私たちの世代では、小学校の時に琴を習う時間があったのを覚えている。しかし、琴という楽器を何台もそろえることはコスト的に学校や市への負担が大きいことであろう。それと比べて、韓国ではどのような授業があるのだろうか。実際に聞いてみたところ、義務教育の中で、音楽の授業はあり、伝統楽器を弾く機会もあったようである。例えば、太鼓の授業があったようだ。世界の民族楽器には太鼓は欠かせない。そして種類も様々である。ちなみに、蔚山大学には、サムルノリ（4 つの民族打楽器による演奏）のサークルがあった。聞いた情報によると、伝統的なものに触れる度合は、日本とあまり変わらないようだ。しかし、もう一つ大きく異なる点がある。それは、音楽大学、または大学に音楽科がある場合、国楽（その国固有の音楽）の学科を設けることが国によって義務付けられていることである。日本にも、雅楽で使用される楽器、または伝統芸能で使う楽器を学ぶために、和楽器専門の学科がある場合もある。しかし、それはまれであり、大学によって異なっている。韓国の場合は、国民の国楽離れを国の政策として、教育に力を入れていることがわかった。

日本では、1950 年代から「邦楽コンクール」が始まり、1956 年からは NHK が「現代邦楽特集」という番組を作成している。伝統的なものをいかに伝承していくかが、両国の課題となっていることが浮かび上がっている。

本来、音楽や歌は表現の道具として、人々の暮らしに溶け込んだものであった。それが、現代では、人々の生活とは別世界の中で、音楽教育や音楽創造というタテマエのもと、音楽社会が成り立っている。それを払拭するためには、原点に戻り、先祖たちが伝えてきた音楽の心を求め続けることが必要であるように感じた。

韓国の美容と健康について

20710211　能野あすか

私は韓国の女性は、美容や健康のために何か特別にしていることはあるのか？について調べました。なぜならば私は以前から韓国の女性が細くて肌がきれいな人が多いことがすごく不思議に思っていたからです。

まず韓国に行ってからパートナー達に聞いてみましたが、あまり心がけていることはありませんでした。だから韓国人の日常の生活や意識に美容の秘訣があるのではないかと思い、韓国の生活に着目していきました。

韓国の食事は基本的にたくさんの具材がいっぱいあり、野菜や魚介類だけでなく果物も使われていました。料理には桃やりんごが入っており、日本では見たことがない苺やキウイなどのドレッシングまでありました。韓国の食事はご飯、スープ、おかず 4,5 種類が当たり前でした。ご飯はお店では白米でしたが家では雑穀米が普通でした。このように韓国では毎日たくさん野菜やフルーツを食べていて、お米にも気を使い、そのためバランスよく様々な栄養素をいっぱい取れることが分かりました。そしてさらに、キムチは欠かせない食べ物でした。キムチなど辛いものを本当によく食べていました。辛いものを食べているから、新陳代謝がきっと活発になるため痩せやすい体になっていると分かりました。

韓国の女性は日本人に比べて美の意識が強いことに気づきました。化粧品のお店に小学生が普通にいて試供品を試していました。日本ではあまり見ない光景で驚いたけど、小学生からすでに美の意識を持っていることを実感しました。韓国ではさらに驚いたことに整形も普通でした。高校を卒業して整形したり、親が誕生日プレゼントや入学祝いとして子どもに整形を与えたりします。芸能人が整形したとカミングアウトしても騒ぎにはなりません。韓国では整形を非難するという日本のような考えはありません。また韓国では撮った顔写真はコンピューターを使って顔を少し変えることができます。だから学生証などの証明写真は実物と少し変わっていることが多いそうです。写真の顔を変えることができるのは日本では考えられないと思いました。このようなことから日本と韓国の美についての意識の違いが分かってきました。韓国では美に対しての思いがすごく強いと実感しました。

韓国にはチムジルバンというのがあります。チムジルバンとはサウナの韓国版と言えます。チムジルバンは岩盤や岩塩から放出される遠赤外線やマイナスイオン効果により、体を芯から温めることで無理なく汗を出すことができます。そして新陳代謝を活性化させ、汗と一緒に体の中の毒素を体外に排出します。しかもチムジルバンは、低料金で気軽に入ることができ、時間無制限なのでとても便利です。さらにチムジルバンの中には温泉や食堂、あかすりやマッサージする場所があります。チムジルバンはデトックスやアンチエイジング、美肌作用、メタボリックシンドロームの予防や改善、疲労回復、免疫力や代謝力の向上、冷え性などに効果があると言われています。このことからチムジルバンは韓国人の健康と美に欠かせないものと分かりました。

韓国の女性が細くて肌がきれいなのは、日常の生活や意識ということが調べてよく分か

りました。私も毎日の食生活から様々なものを取り入れて、美の意識も強く持とうと思いました。なぜきれいなのかが分かったので、それをもとに韓国の女性のようになりたいです。

20710219　渡邉浩子

設定したテーマ①：「韓国人はサウナによく行くのか」

私がこのテーマを設定した理由は、韓国ドラマでは服を着て入るサウナに行く場面が多くあり、韓国人は実際にドラマの通りによくサウナを利用するのか知りたかったからです。

まず、私がドラマで見たようなサウナは、サウナとは言わずチムジルバンということを知りました。ドラマにチムジルバンの場面が多くあるくらいですから、やはり韓国人は全体的にチムジルバンが好きなようですが、中にはあまり好きでないという人もいました。私のパートナーは滅多に行かないと言っていましたし、私の蔚山大学での授業の先生は、暑い所が嫌いだからという理由でチムジルバンは好きではないとおっしゃっていました。また、人が多いから嫌いだという人もいるようです。

私も実際にチムジルバンへ行ってみました。利用者の多くは女性や年配の方というイメージがありましたが、中学生くらいの男の子たちが友達同士で来ていたので、利用者の年齢層が幅広いことも新たに知りました。

設定したテーマ：②「韓国のファッション」

韓国ではサウナや垢すり、整形手術が盛んだし、辛い食べ物は美肌に効果がある、というように、韓国人は美意識が高いと聞きました。韓国の美容に関しては有名なので、あまり知らないことをテーマに設定しようと思い、考えたものがファッションについてです。

高校生のときにアメリカへホームステイに行きました。ステイ先に同世代の女の子がいたので、おみやげに日本のファッション雑誌を持って行ったところ、とても喜ばれました。海外のファッション雑誌に興味を持ち、日本のものとの違いなどを知りたいと思い、コンビニや書店で探してみましたが、韓国にはファッション雑誌がありませんでした。日本では、服の系統によってそれぞれ雑誌があり、コンビニや書店には必ず数種類の雑誌が並べてありますが、韓国では見られませんでした。

ではどうやって流行が発信されるのかと疑問に思いました。パートナーに今韓国で流行しているものを聞いたところ、ある女性歌手のヘアスタイルが女子中高生や若い女性の間ではやっていると教えてくれました。また、夏は蛍光色が人気があるようで、店にはそのような服が並んでいました。韓国では、雑誌ではなくテレビに出る歌手や女優によって流行が作り出されているようです。

弁論大会
原稿

만남

20710027 宇戸麻祐子

제가 좋아하는 일본말이 있습니다. “一期一会”라고 하는 말입니다.

인생에서 한번밖에 없는 만남으로 그 만남을 소중히 해야 한다는 의미입니다.

한 사람이 평생 동안 만나는 사람은 과연 몇 명일까요? 아마 셀 수 없을 정도로 많은 사람과 만날거라고 생각 됩니다. 하지만 이 세계에는 더 셀 수 없는 사람들이 존재하고 있습니다. 그래서 그 중에서 만날 수 있는 사람은 정말 귀중한 사람들이 아닐까요?

만남이라고 하는 것은 정말 신기하지요? 그 만남이 자기의 인생을 바꾸기도하고 큰 영향을 줄지도 모르기 때문입니다. 지금까지 많은 사람들과 만났습니다. 그리고 이 연수에서도 또 많은 사람들과 만날 수 있었습니다. 파트너와 그 가족 그리고 다른 대학교에 다니고 있는 일본 친구들이나 한국생활을 도와준 도우미 분 한국어와 일본어 공부를 한 울산대학교의 학생들. 그리고 매일 매일 저희에게 한국어를 가르쳐 주신 선생님들까지. 정말 많은 사람들과 만날 수 있었습니다.

여기에서 만난 모든 사람들에게 감사하고 싶습니다. 그리고 이 만남을 잊지 않고 일본에서 생활하고 싶습니다.

도전

20610081 小橋 彩

여러분 안녕하세요? 저는 미야자키공립대학교 3 학년인 고하시아야라고 합니다.

울산에 와 3 일째에 저는 한국에서 잘 지내고 있다고 전하려고 공중전화로 부모님께 전화를 했습니다. 그런데 그 때 아버지한테서 충격적인 사실을 들었습니다. 집 근처에 살고 계시는 아주머니께서 그날 아침에 위암으로 돌아가셨다는 것입니다. 그 아주머니 가족과 저희 가족은저희 할머니의 어머니 대부터 오랫동안 사이가 좋았습니다. 그래서 아주머니께서 돌아가셨다는 것은 저에게도 제 가족에게도 슬픈 일이었습니다.

이제 아주머니를 만날수 없습니다. 그날 밤에 저는 눈물을 참을수가 없었습니다. 일본에서는 성인이 되면 사교관계를 중요하게 생각합니다. 그렇기 때문에 타인을 진심으로 신뢰할수 있는 사람은 거의 없습니다. 하지만 아주머니 가족하고 저희 가족은 옛날부터 서로 신뢰하고 있었습니다.

사람들은 모두 언제 어떻게 될지 모릅니다. 우리는 항상 1/2 확률로 살고 있습니다. 어쩌면 오늘 교통사고를 만나서 죽을지도 모릅니다. 그렇기 때문에 지금 이순간을 힘껏 살아야 된다고 가까운 사람의 죽음을 통해서 진심으로 강하게 느꼈습니다.

실은 저는 이 연수 전에 울산대학교에 1 년간 유학하고 싶어서 미야자키공립대학교 학내시험을 쳤지만 떨어졌습니다. 그래서 역시 저에게 유학이 무리라고 생각하고 있었습니다. 하지만 이 3 주동안의 연수를 통해서 한국어랑 한국문화를 더욱더욱 공부하고 싶다는 생각이 들었습니다. 일본에 귀국한 후에도 어학을 지금보다 더욱 열심히 공부해서 내년에 다시 유학시험을 치기로 했습니다. 포기하지 않고 하고 싶다고 하는 것에는 모두 도전 해보고 싶습니다. 그리고 언제나 노력하는 자세로 생활하고 싶습니다.

이제까지 많은 신세를 진 아주머니랑 자신을 도와 준 모두 사람들에게 감사의 마음을 항상 가지면서 자신의 인생을 이 3 주의 연수동안처럼 만끽하고 싶습니다. 감사 합니다.

정의 힘

20610189 丸山沙織

여러분 안녕하세요. 미야자키 공립대학교에서 온 마루야마 사오리라고 합니다. 저는 지난 3 주간이 순식간에 지난간 것 같았는데 여러분은 이 연수에서 어떤 것을 느꼈습니까? 저는 울산이 두번째입니다. 우리들이 울산에 와서 1 주일째에 홈스테이가 있었는데 그 때에 새삼 느낀 것이 있습니다. 그것은 한국사람의 정의 힘입니다.

올림픽이 시작되어 온 세계가 한충 고조되고 있는 중 저는 파트너의 집에서 아침밥을 먹으면서 생중게로 수영경기를 보고 있었습니다. 그 때 자유형의 박태환선수가 첫 번째 금 메달을 획득했습니다. 그 순간 아파트 전체에서 환성이 터져서 텔레비전보다 방에 있는 한국사람의 반응에 깜짝 놀랐습니다. 마치 자기가적이 상을 받응 것 같은 기쁨을 피부로 느낀 것 같았습니다. 객관적이 아닌 주관적인 감정을 가지고 있는 것을 보고 강한 정을 느꼈습니다. 객관적이 아닌 주관적인 감정을 가지고 있는 것을 보고 강한 정을 느꼈습니다. 그리고 홈스테이가 통해서 파트너와 그 가적분들이 배려 깊은 다정함으로 저희를 따뜻하게 맞이해 준데 대해서 깊은 정을 느꼈습니다.

이러한 다정함과 함께 자기 주장을 서로 확실히 하는 것도 상대의 마음을 파악해서 배려하기 때문에 보다 좋은 관계를 만드는것으로 이어진다는 것을 깨달았습니다. 한국사람은 상대에에 정보를 확실히 전하고 사라들의 마음속 깊은 곳까지 잘 전 할 수 있습니다. 상대와 정확히 마주보며 유연한 커뮤니케이션을 하는 는력을 가지고 있습니다. 감정과 언어의 밸런스도 일본과는 다르며 자신의 심정을 표현하기 위해서 정을 적극적으로 활용하고 있습니다. 언어 외에도 스킴쉽과 바디랭귀지가 일본사람보다 빈번한데 그것을 통해서 소중함 사람과 깊이 사귀고 있다는 것을 증명하고 있는 것이 아닐까요? 자신의 생각을 행동으로 옮기는 것을 보면 자신을 이성에 보다 가깝게 컨트롤 할 수 있는 힘과 정신력도 있는 것 같습니다.

정을 발휘하는 커뮤니케이션. 이것은 한국사람이 가지있는 매력적인 힘입니다. 일본에서는 감정이 지나치게강하면 강한 성격이라던가 과격헌 성격이라고 생각하기 쉬운데 한국사람들은 바꾸어 말하면 감정이 풉부하고 인간의 특징을 최대한으로 활용하고 있다고 할 수 있습니다. 생각을 명확히 전하는 것 뿐만 아니라 프러스 알파로 정이라고 하는 것은 필요불가결한 것입니다.

지금까지의 이문화 체험으로 느낀 이간의 표정, 몸짓, 동잒, 말 표현의 차이와 함께 살기 위한 카테고리의 하나러써 정을 느끼는 커뮤니케이션을 익히고 싶습니다.

들어 주셔서 감사합니다.

異文化実習

こんな体験をしました！

○　テコンドー

テコンドーは韓国の伝統的な武芸で国技です。オリンピックの公式種目にもなっていて、見たことのある人は多いと思います。足のボクシングとも言われているそうです。研修のときは大学の体育館で、蔚山大学テコンドー部の方々から直接指導を受けることができます。長方形の板に、自分の目標を書いて一人ずつ足で割るという貴重な体験もできました。

○慶州

慶州は韓国の歴史文化都市です。日本の京都や奈良に相当する場所で、世界中からたくさんの観光客が訪れます。蔚山の北に位置していて、車で１時間くらいで行くことができます。慶州は新羅王国の首都・金城のあった土地です。私たちは世界遺産にも登録されている仏国寺、王のお墓のある天馬塚、そして国立慶州博物館を見学しました。見学当日は雨が降っていて天気は最悪でしたが、韓国の古い歴史を感じることができるとてもいい時間でした。韓国内や世界中からたくさんの観光客も来ていました。

○　陶磁器作り

蔚山からバスで約１時間の田舎に行き、陶磁器の先生の工房で、陶磁器作りをしました。まず、先生から説明がありました。一つは先生と一緒に轆轤を回しながら、茶碗を作り、後は好きなものを好きなだけ作りました。個性的なものがいっぱい誕生しました。研修の最終日には、それらの作品が焼かれて、蔚山大学に到着しました。一つの思い出として、大切に持ち帰りました。

○　韓国料理

午前中の授業のときに、韓国料理について勉強し、午後は実際にみんなで韓国料理を作りました。チヂミと豚肉の炒め物の作り方を料理の先生が教えてくれました。いっきに説明されても、なかなか覚えられませんが、必死に材料と順番を聞きました。辛さを調節しながら、わきあいあいと料理し、最後にマッコリを飲みながら試食。おいしかったかな？辛かったかな？グループで、微妙に違う料理が出来上がりました。

韓国行ってこう思った
アンケート

★研修に参加した理由

韓国に行ってみたかったから、韓国語や韓国の生活、文化を学ぶため、費用が安い

Ｑ１、寮生活の快適さ（よい・まあまあ・悪い）

まあまあ：９人　よい：１人

Ｑ２、寮生活で不便だった点

●洗濯機と冷蔵庫が部屋に無かった　・エレベーターの声がセクシーだった

●トイレとお風呂が使いにくかった　・自炊ができなかった

・　学校から遠い　・門限が早い

Ｑ３、日本から韓国に持っていった物は（これは役に立ったぞー）？

●辞書　　・変圧器

●洗濯用品（洗濯ばさみ、ハンガー、ひも）　　・箱ティッシュ

・　裁縫道具　　・日本食　　・スーパーの袋　　・ガムテープ

・　リセッシュ（服の消臭スプレー）

Ｑ４、韓国の印象

・　人が熱い、熱狂的　　・食べ物が辛い　　・人が優しい　・せっかちで時間にルーズ

・　ネオンが派手　　・自由　　・活気がある　・人と人との距離が近い

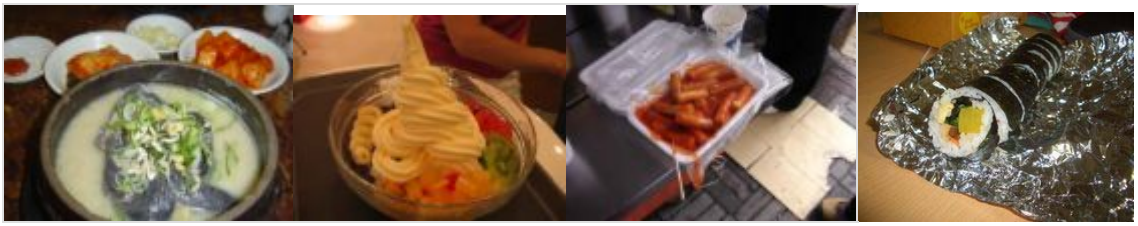
Ｑ５、どの食べ物かおいしかったか

・　サムゲタン　　・鶏肉のチャーハン　　・ヘムカルグクス　　・パッピンス

●キンパプ　　・サムギョプサル　　・ポックンパ　　・カムジャタン

・　水冷麺　・マントゥ　・キムチ　　・Mr ピザのピザ　　・チムタク

・　トッポッキ



Ｑ６、どの食べ物が口に合わなかったか

・カクトゥギ　　・冷麺　　●エゴマの葉　　・酒　　・ポンデギ

Ｑ７、１番楽しかった文化授業

１位　テコンドー、料理

２位　歌

Ｑ８、異文化実習で韓国語が上達したと思うか

ほとんどの人が上達したと思う。数人は少し上達した。

Ｑ９，蔚山の印象

店がごちゃごちゃしている、住みやすい、ほどよく都会、学校の周り、産業都市、めっちゃ日本人を見てくる、坂が多い、意外に街、丸い人が多い

Ｑ１０，韓国で驚いたこと

バスや車の速さ、トイレの使い方（紙を流さない)、交通費が安い、マンションの数が多い、マンションの高さが高い、スキンシップ

Ｑ１１，パートナーとの交流は盛んだったか（どんなことをしたか)

一緒に買い物をした、一緒にご飯を食べた、遊園地へ行った、海へ行った、クジラ博物館へ行った、ロッテ百貨店の観覧車に乗った、公園を散歩した

Ｑ１２，ホームステイはどうだったか

楽しかった、家族が優しかった、緊張した、ホームステイしたかった・・・けど。ホストファミリーに会えて良かった

Ｑ１３，自由行動で行ったところ

釜山、蔚山市内、ルバン、居酒屋

Ｑ１４，好きな韓国のドラマ

冬のソナタ、チャングムの誓い、宮、私の名前はキム・サムスン、悲しき恋歌、パリの恋人、コーヒープリンス１号店、マジック、ＢＡＤ　ＬＯＶＥ

Ｑ１５，板門店の感想

少し怖かった、日本・韓国・北朝鮮について考えるいい機会になった、緊張感が伝わってきた、異様な空気だった、なんか重々しい感じ、ドキドキした、楽しかった「ＪＳＡ」そのままだった、本当に行ってよかった

Ｑ１６，韓国の好きな歌手・俳優は？

ｄａｖｉｃｈｉ、ＢｏＡ、イ・ヨンエ、イ・ヒョリ、Ｂｉｇ　Ｂａｎｇ、Ｂｒｏｗｎ　Ｅｙｅｓ、ソ・インミョン、ｗｏｎｄｅｒｇｉｒｌｓ、キム・チョングック、ＳＧ　ｗａｎｎａ　ｂｅｅ、チョ・ソンモ、イ･ドンゴン、ＳＵＰＥＲ　ＪＵＮＩＯＲ、東方神起、ＮＥＬＬ、ソテジ

Ｑ１７、日本へのお土産で買ったモノは？箸、オクスス茶（とうもろこしの髭のお茶）、情、ｽﾄﾗｯﾌﾟ、化粧品(ﾊﾟｯｸが多い)、　BB クリーム、ﾁﾏﾁｮｺﾞﾘを着たくまさん、ｺﾁｭｼﾞｬﾝ、ﾃｨｯｼｭｹｰｽ、ﾊﾝｸﾞﾙのｼｰﾙ、ｼﾞｬﾑ(柚子)、ﾉｰﾄ

Ｑ１８、よく行ったお店は？

寮の近くにあった安い食堂（ｷﾝﾊﾟﾌﾟﾁｭﾝｸﾞｸ)、ｴﾁｭｰﾄﾞﾊｳｽ、ﾍﾞｽｷﾝ３１、ART　BOX、ｴﾝｼﾞｪﾘｰﾅｽｶﾌｪ、ｽｷﾝﾌｰﾄﾞ、GS(ｽｰﾊﾟｰﾏｰｹｯﾄ、ｺﾝﾋﾞﾆ)

Ｑ１９、面白かった事件は？

ｱｽｶのｺﾏﾌﾟｮ事件(人気)、ﾍﾞｯﾄﾞから夜中に落ちました事件、女子高校生に握手を求められた事件、お尻ｽﾘｽﾘ事件、四つ葉のｸﾛｰﾊﾞｰLOVE 事件、ﾄｲﾚの鍵を閉めていない韓国人の使用中を見てしまった事件、ﾊﾞｽで転んでおじさんの上に事件、寮が停電した事件、ﾊﾟｯｸ会事件、ﾄｲﾚを詰らせた事件、寮の１階の売店のおばちゃんが顔にﾊﾟｯﾁを貼ってくれた事件

ヲヲヲ

Ｑ２０、ｿｳﾙ(観光)で行った所は？

南大門市場、東大門市場、ﾐｮﾝﾄﾞﾝ、ﾐﾘｵﾚ、ｿｳﾙﾀﾜｰ

Ｑ２１、大学前のお気に入りのお店は？

Mr.ﾋﾟｻﾞ(みみのｲﾓ大好き),ﾊﾟｽﾀ屋さん,壁に落書きいっぱいのｶﾌｪ(果物ｼﾞｭｰｽが 200 ｳｫﾝで飲めた!)

Ｑ２２、研修のﾒﾝﾊﾞｰはどうでしたか？kk

初めて知り合った人もいたけど、研修を通して仲良くなれてよかったです。みんな優しくてすごく楽しかった♪　ﾁｪｺﾞｰ!!異国に行くと仲良くなりますね。家族になりました♪日本に帰っても仲良し!!　笑いが絶えず楽しかった。みんなと仲良くなれてよかったです。よかったと思います。楽しかったです。超良かった＾－＾個性派ぞろいでとても面白い人たちだった。また皆で行きたい!!　このﾒﾝﾊﾞｰで行けて良かったです。中々の粒ぞろいで、皆素敵だったと思います。ﾁｪｺﾞ！よかったと思う。ﾊﾞﾗﾝｽがとれてた。みんな大好きです。

Ｑ２３、最後に一言。

このﾒﾝﾊﾞｰで行けて楽しかったです!!　充実した夏休み(８月)でした。また修学旅行みたいに皆で行きましょう。次はいつ飲む？　韓国での暑い、熱い夏!!忘れません。始めての海外で不安だったけど、充実した３週間でした。辛いこともありましたがいい経験ができてよかったです＾＾みなさんも是非行ってください!　すごく楽しかった。一生忘れられない思い出になった!!ありがとうございました。また韓国に行きたいです。みんな、これからもよろしゅーに＾－＾　本当に行ってよかった。勉強にもなったし、楽しかったし。また韓国に行きたいです!! みんなでまた集まって遊びましょう～。

あとがき

韓国でのこの三週間は私たち 11 名にとって忘れない日々になりました。毎日が新しい発見や、刺激の連続でした。たくさんの人と出会い、たくさんの経験をすることが出来ました。この三週間で自分達の未熟さや成長を感じられました。この三週間での経験をこれからの日々につなげていきたいです。

最後に、今回の異文化実習に関わってくれた人達皆に感謝の気持ちをここで述べたいと思います。本当にありがとうございました。

発　　行　　日　　平成 20 年 10 月 17 日(金)曜日

発行・編集者　　宮崎公立大学人文学部国際文化学科
韓国異文化実習参加者

発　　行　　者　　宮崎公立大学人文学部国際文化学科
〒880-8520 宮崎県宮崎市船塚一丁目 1－2
電話 0985 (20) 2000